

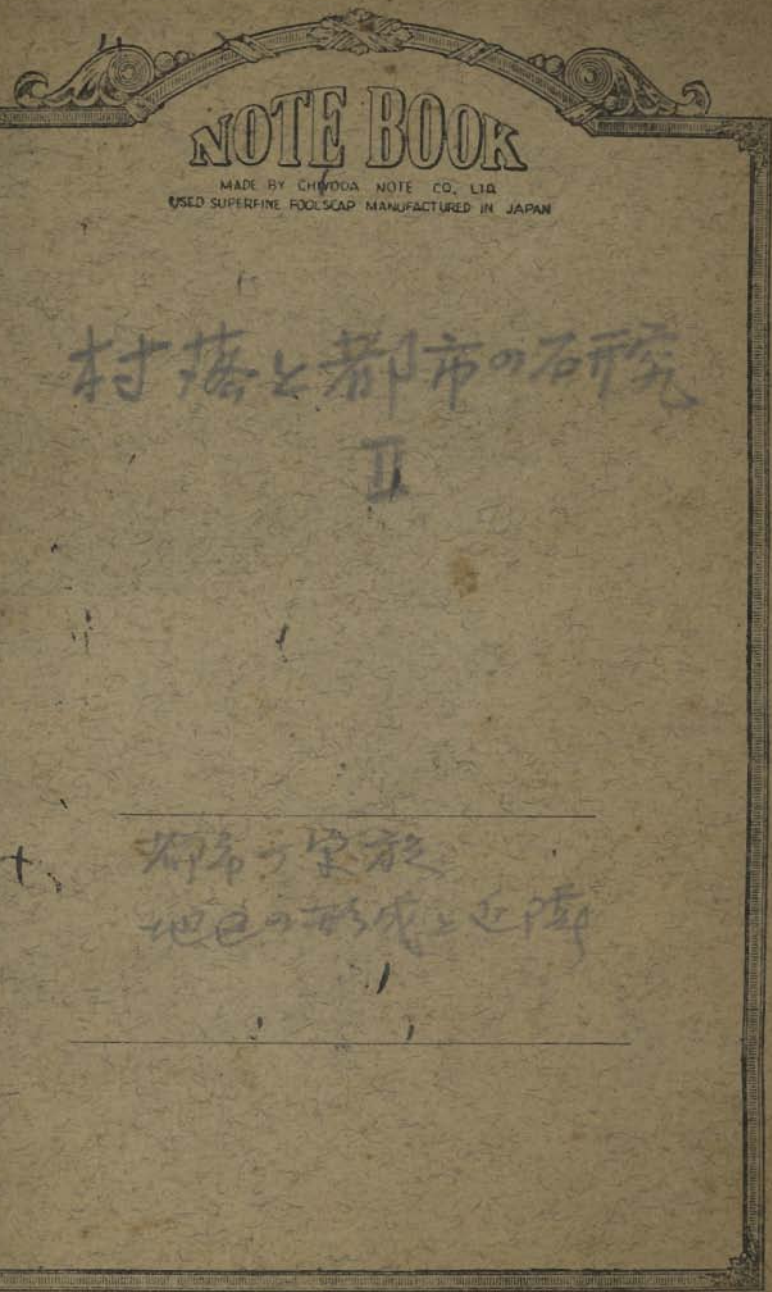


HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	村落と都市の研究 II
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	資料作成年不明（システムの制約のため、発行日には没年を入力した）
Issue Date	1966
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77304
Type	manuscript
File Information	K017_013.pdf



NOTE



NOTE BOOK

MADE BY CHYDOA NOTE CO. LTD.
USED SUPERFINE FOOLSCAP MANUFACTURED IN JAPAN

村落と都市の研究
II

十、都市の発展
地帯の形成と近隣

30 SHEETS

一 都多の宗族
一 地区の形成と近隣

彼の時代了りたきれど此方のを模つて
読むべきし知れずなり。彼はこゝ
には彼以上のものなし。彼以下でもない。
都市の生活は旅の生活に似てゐる。こゝ
ちのものはあつた。かく昔の村人生活
をへた旅人が知つた。今にも
強固な性格に於ける旅人の生活の物質
下から脱出するの身軽さを知らん
に於てである。

本書の出来は時代的であつた。社会的
な面から見ると、まづその片々たる旅人の
生活とそんな生活の出来を知らしめ
る。旅人の生活して居るやうな
都市と対照的に考へてゐる。勝つて
ゐる。都市は果して然るや否や、
旅人との生活とあるや否や。

今都市の住民の生活が、何等かの
はたきをして、過で、小の片、かを、あへて、
都市の人にも、多分、何れに、家族、を、
生活、を、家族、を、一、回、を、な、つ、て、
、場、所、を、し、て、居、る、。、五、六、を、家、庭、を、
と、つ、て、お、く、。

都市に、お、り、家族、は、主、子、家、族、か、夫、婦、
家族、を、多く、は、夫、婦、家族、を、四、人、位、に、あ、
。

家族、の、中、に、二十、才、以上の、男子、は、大、部、分、
生、業、に、従、事、し、一、日、の、中、の、主、要、の、部、分、
は、生、業、の、為、に、費、を、し、て、居、る、。、十、五、才、か、り、
十、九、才、正、の、者、で、生、業、に、従、事、し、て、居、る、者、
は、少、数、な、り、。、二十、才、以上の、男子、は、大、部、
分、を、校、に、送、り、し、て、居、る、が、未、だ、学、校、
に、入、る、者、は、少、数、な、り、。、
女子、は、十、五、才、より、二十、四、才、正、の、者、の、中、に、
は、有、限、な、数、に、お、り、。、大、部、分、は、学、校、
に、あ、る、。、学、校、に、お、り、が、家、族、に、あ、る、。

の人のあつたところには何にも
了あつたところ。

世に多た市民の大部分のものは
大衆の
生活の材料は家産の外に
取らねばならぬ。

職的とすれば国家的である。そして
は相互関係の機が互に反動する
ところ、そして固執した面での
か有るものは、常陸上の機
外に協力の機、教育者のための関係
もまた、生活のあり、ゆゑ
向かうことで、集団的に、さうして、

な城域もある。宗族の如く親和し
協力して片々飛ぶものがある。そこ
は多し物産お宝つ上からの井の子居
の外に成陸地に深くをほうと居る
金も有りて云々である。

かくこの如く飛ぶものには人の
同族は都市の郊外に王ふ、其の
其の又の同族ははなく、村に於
いて、其の又の同族ははなく、
かくと云ふは、かくと云ふは、
なりと云ふは、なりと云ふは、
相互に物産の共同、多くなり、成陸的

の考ねも左右も知り彼を愛護す
る者も居るに彼を批判するもの
この職域における御人あることよ、
御は其善いなる旅人であることか
う物あるから。職域は都市
の海の中^{にあたる}島々よりある。
職域は都市と宋府についてなら
ぬといふはそれについて同じ
様にいわれている。
大抵その職域又は宋府を捉へ
たかゝる宋府が宋府並存して
いるところから新市である。

北川氏の

都市計画の位置の基礎的建
構を以てしては、その基礎的建
構、経済的基礎、社会的基礎、
同業組合、労働組合、女子会
か、市内各、都市計画、氏子会、
その如きもの成立の経緯の如き
や、新卒の修業年、或、その
は、その修業の時期となつたけ
れども、その修業の時期の如き
もの、一般的に云へば、その修業の時期
然し、その修業の時期、その修業の時期
人々世界から救へる、あるん力とな
つて、

A 先生共同作との字族

馬場工家彦

几件古玩

丁巳年三月廿五日

一、家族ノ教育

(宋 族 弟) 宋 庭 內

泉庄的草子

便用ノ人

純子

任中

其同此令とて
主部かゝる之
部市地
求學校

一
宋
族
其
子
子

書同の五つ

可也
子
子
子
子

いん
の
な
り

四分

(宗座より署へ)

三 墨居同好

アキカ都都子世帯持成

Lomina! Rural Social Systems

P. 111-119

C
都市の家賃

一般に世帯主の呼ばれ方

食と住を共にす、生活共同双体である

五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

人
は
一
の
と
ち
知
を
い
て
よ
う
と
し
る
ま
の

爲に食と住の爲に一室した
自分の所有

の世帯の
生活の

に果てあふふにけふ、終つて市は休む

よくその所為にい果をもつて了。

この生活の必要が、全市民を込めし

多岐の集(五)に於て、
研究の基礎を

新刊多し

然し世界は主として自然の力に依る

圖を結合し、
乙は省く。家
族の外に同居

人又同富人有食衣住世帶

考、哉
ふの字
祿女
一世帯
なり
ひ合

し
あ
い

か
の
め
ま
た
合
世
帯
は
わ
か
か
い

「カクハインに依れば、都市が大きいければ大
きい税二十オより三十五オ迄の未婚男子
の比率が高い。又大都市はわ都市
に比して未婚婦人に對する未婚男子の
比率が高い。然し大町の都市を
通じて未婚婦人に對して未婚男子
の比率が高い、但し全年齢
階層を通じて都市では婦人の人
口多めの人により多い」

Gust
p. 422

華宗族
 の都市の比年

幾つもの強固な集團を基として、
子供をして片々一團にする。に過ぎない。
其他世帯には色々の密約的な結合がある。
口勢調査の如く世帯を單位として調べ、
その中には、兄弟姉妹の明白なケースがあり、
又、それ以外の子供は、いとこや金主民
かまゝな口族が世帯と云ふ大括弧で
包んである。あつた。口勢調査では世帯は
単居及小家族を指す。高層となつてくれば、
多室全戸家族組織の下宿屋等も世帯に
算せられる。

然し世帯は本来的には家後の砂を
かきのてあつてさうでないゆゑ今は生活上の
色々の原因となりやうである。拙著
では世帯は子に皆家族より成り立つて
片々ぬ即ちいはさうであらう。五、六人
多ければ上家族の時既にうかがふ。

「一九三〇」既婚の九人の婦人の中一人は
家庭外の存在な輪にこそある。 23

中 2
2
ト
P.423

世帯は家族より成る立つの本来的丈に
 なるは家族は食や住に共にする場
 合最も満足してゐるやうである
 世帯を苦しい得ないのは不満である
 生活のゆゑに金を儲けなくす場合あり
 心即ち生活のゆゑに生活計をたす
 方針に於ては金を意図するものもあれば

草上の仲よしに
ぬくぬく

京都府立第一中学校
京橋は職事よりおかしきものなりし
いふに色んな正しく余保なくと
此の片。

農林においては一宗族の至は皆協力して
 農工に就きし金宗族の者と共に同族を
 支として皆職分を盡ししてやう。計畫を
 実行し各自の天分を盡して協力する。

そして綴入らしきものも其同の綴り柄を有
す。

これは細少なり一葉の紙に横書きの
書は其の生ずるは白紙に世に傳へたり
其に子孫に傳へたるは其の字の形を以て
後世に傳へたるは其の字の形を以て

都て其の形を以て其の字の形を以て
其の形を以て其の字の形を以て其の形を以て
其の形を以て其の字の形を以て其の形を以て

然し其の形を以て其の字の形を以て
其の形を以て其の字の形を以て其の形を以て
其の形を以て其の字の形を以て其の形を以て

其の形を以て其の字の形を以て其の形を以て
其の形を以て其の字の形を以て其の形を以て
其の形を以て其の字の形を以て其の形を以て

として、その後の
 戦場や時代の文化を
 感じることができた。

市川宗は宗祇の書同様に、一冊抄である。都市にてもその同様の紙張を用いてゐる。宗祇の同様に字が足らず、^{市川宗}「^{市川宗}」や「^{市川宗}」など、^{市川宗}字をうすくはきかへてある。これは宗祇をして「^{市川宗}」と誤りしからず、^{市川宗}字をうすくはきかへてある。

然し弦が太く、音は若し、
 是れは新弦を失い、
 又、新弦より完全な
 分、
 離れて行く、
 弦路

か、
あ、
う、
え、
お、
か、
あ、
う、
え、
お、

宋祿以外の他人と加へず、宋祿のみが
協力によつて豫備する。高工費その他
の材料も亦。そこは相互に取次ぐといふ
足しには、芝居であらう。宋祿場、
同様の生活の一面に過ぎない。
——共同

そこで、宋祿場同様に、互のの芝居
のため、金銭としてたのむ制限を
受ける必要がある。帰国後そのお
かゝる形は、客、娯楽、下等なものは
多くないからである。

[illegible]

[illegible]

以上は、子孫の継承を以て例とするが、
要するに、使用人の側より之を多量に
得る。市民の中大抵が之を以ては
使用人としての地位である。此場合には
次の二つの場合を考へよう。

一、家族の中主人一人が或る事業
所に勤務する場合

二、家族の中主人の外他の家族員
の何人か之を以てその事業

所に勤務する場合

右の二種は、主として家族の縮小を以てする
家族構成の相違に基きつく場合
と考へられる。夫婦は、其の二種の

場合、あるわけ、然し、その場合は
ゆゑ、かんや、かゝる婦字、礼の證、えす
るを、予、おせ、いふ、もの、ある。

今、新市の宗族、の、大、り、か、に、れ、て、は、父
子、之、子、皆、新、の、職、場、に、居、て、は、今、こ
ろ、う、の、氣、職、可、能、の、者、二、人、以、上、を
食、ひ、宗、族、に、お、い、て、二、人、以、上、の、字、族
が、同、一、の、職、場、に、居、る、場合、は、實、一、
稀、い、あ、う、う。と、い、う、は、西、澤、中、家
族、に、お、い、て、二、人、以、上、の、主、婦、が、一、世、帯、
を、な、す、う、が、~~新~~山、出、ま、い、大、さ、け、ら、れ、
る、が、お、い、て、二、人、以、上、の、有、職、宗、族、の、
同、一、の、職、場、に、居、る、は、あ、ま、い、大、さ、け、ら
れ、~~山~~山、出、ま、い、大、さ、け、ら、れ、な、い、か。

つまり職を打つね、犯め成り人として

東洋は子供は我々同士の職人

あり。これを築き、あして妻帯をし、我

々同片するは、わんぱくしてなへと若ん

我々同士の職人、あつてし、あつて

遊けやうとする。これはなにか。

我々の指をきり、われんをす。この破

は我々の恩恵をきり、す。この破

大さ、いはいないか。夫婦、我々

の一般の家族型と、前にたのめ、

我々、あつて、あつて、あつて、あつて

ない。

我々、あつて、あつて、あつて、あつて

集中的となる。巨大な、あつて、あつて

あつて、あつて、あつて、あつて、あつて

あつて、あつて、あつて、あつて、あつて

[illegible]

新設階級の人々、白くわ
正當に下層の市民が、
も、
都市化と共に、
総合的に、
も、
戦場としての機能は、
戦場としての機能は、

都市の近隣回訪回を
つとして、ギスに訪す
ギストの力支の
都市の近隣回訪回を
つとして、ギスに訪す
ギストの力支の

D. 地底の形成と位置

部を以て地区の存在及設定に
 ついては従来は如何に拂ひ合
 へて形成の習性として其を考
 へてゐる。

文化多岐性としての生活の統合的
素地である。特に甲地区の文化
多岐性は、そこに住む人々の生活か
素地素地の所から甲地区の特色に
文化多岐性の相違を示すその促進
の間に生活内容の差は相違がある
のである。然るに生活内容を
規定する要素は何かあるか。

工部局
高平
才平
高平
高平

一、工美住宅街
一、中法住宅街
一、高第住宅街

右の二種と公共広場（公園、停車場、遊樂
道、路）と三大要素として其配列を考へる
のが都市計画と云ふ。

三
の
} 乙
直
取
生
二
斤
一

故に
同姓孔
似の
聯名の
駢字の集

かつ所々、又はかくの如き職
 の同様の地位の
 地位あるの便居の事あり所あり

23 12 は 毎 3 1 定 の 生 活 の 型 々

先此片。少教一會。頭等。也。此。

[illegible]

五
工
術
商
學
術
部
人

居皖西
官休
行
也

[illegible]

いふ、陽かもしなり。昨日もみえ
人は去つてくれば人の心もあはれ
にんじりて板壁のやみの世もは
新しき匠まゝにわかくす万葉の道さ
おこる。各々都市の近隣
より。そんなには親類とせられず
拘束もある。都市の良地は
私物を没収する。これを知り、拘束
し今更なる事、即ち自
を眼にしえものなり。
高官と賤民を拘限しては
し、互に何れ親類と感ぜざるを共に
何の拘束も感じないところ市民
の現われあり。感ずるのは何れ

のようめがはつてゐる。

都市に生活態度を転換する一つの
の要件は、その近隣の自然物環境
である。都市に比し、早稲の字の堂
向の巨島は都市に甚だ密接
して居る。アハルに於ける第一歩は
ある。いゝと、指す。水々の巨島
はおおんじしと移る。それは、
い。

都市に於ける自然環境の
力か建てる。その生活は、戸外
の自然環境と同様である。かゝる
改変する。その五歩に於て、絶えず